

P14 再造林及び保育経費の抑制と造林作業の省力・軽労化に向けた取組

十勝西部森林管理署
 花見有美子
 小川 友菜
 阿部 竜太
 花田 滯音

研究の背景・目的

十勝管内の人工林は利用期を迎えており、更新・保育作業及び経費の軽減は喫緊の課題です。大樹町国有林尾田第一2078林班と小班（造林面積0.83ha）を試験地に設定し、クリーンラチコンテナ苗を3パターンの低密度で植栽し、その後の成長量等を調査、加えて植付後は無下刈を試行しました。

研究の内容・結果

取組内容	結果
【低密度植栽試験地での調査の実施】 令和4年度に大型機械地拵（植生回復抑制）を実施し、翌令和5年春にクリーンラチコンテナ苗を3パターンで低密度植栽した試験地において、植栽苗木の成長量調査及び、エゾシカ・野鼠被害状況調査を実施しました。 【無下刈施業の現況調査】 上記試験地において無下刈施業及び下層植生調査を実施しました。 ①2,000本/ha ②1,500本/ha ③1,000本/ha 各50本調査木に指定 傾斜	令和7年度の調査木の調査結果は、下表のとおりであり、 ①箇所は細く長く成長した一方、②箇所と③箇所に大きな違いは見られずどちらも下層植生高を超える成長がありました。全体でエゾシカと思われる被害は約1%、苗木の枯死率は約5%であり、野鼠被害は見られませんでした。 調査木の苗高と根元直径の成長 また、下層植生の調査結果は、元々クマイザサであった植生が、グラップルレーキで地拵したことで、平均植生高が71cmのバライチゴ科に変わっており、無下刈による苗木 への蒸れなどの影響は、特に確認されませんでした。 なお、当該地のプロット毎の植付にかかったhaあたりの直接事業費（労務費・材料費・直接経費）は、本数にほぼ比例して減少しました。 植付にかかる直接事業費 （2千本植を100とした場合）

今後の展開

これまで民有林関係者から、低密度植栽について「エゾシカ野鼠被害により将来的に成林するのか」、無下刈は「蒸れによる苗木の影響に不安がある」等の意見をいただいております、「失敗例も含めて色々な現地を見てみたい」との要望が出始めています。

当該地の結果も一つの例として紹介し、その中で当てはまるものや参考になるものを持ち帰っていただいたり、保育経費の抑制と造林作業の省力・軽労化について意見交換や理解を深めていただくことで普及に向けた取り組みを進めていきます。

